

2014年3月4日開催 第586回番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長、櫻井美幸副委員長、上田理恵子委員、神谷徹委員、佐藤卓己委員、佐藤友美子委員、東野博昭委員、若菜英晴委員

■ 毎日放送出席者

松島専務 榎本専務 梅本常務 豊田取締役 木田取締役
赤阪コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長 柚山ラジオ局長 西村編成局長

◆ 審議議題

「MBSの番組・放送全般」について

◆ 委員交代

◆ 審議事項

平成25年度最終の審議会となるため、個別の番組の審議ではなくMBSのラジオ・テレビの番組について、及び放送全般について自由な意見の交換をした。

各委員の主な意見は次の通り。

- *昔から関西は新しいアイデアを生み出す機運がある。そこを盛り上げていくマスコミの役割はすごく大きい。関西から日本で注目されたり世界がなるほどと思うような視点でぜひ発信して行ってほしい。
- *バラエティ的に要素をたくさん詰め込むことによって、逆に欲求不満が起こっている。少しくり方を考えていただいて、視聴者の疑問にきっちり答える形のほうがいいのではないか。
- *新聞、テレビ全般に言えることだが、特定秘密保護法案に反対するのは、それはそれで結構だと思うが、戦前に回帰するとか、治安維持法と同じだと関連づけることが歴史に学ぶことだと誤解するようなメッセージで構成されている。政治にも結果責任があるのと同じように、報道にも結果責任は伴う。
- *老若男女が遊びに来るエリアとつながっている立地にあるのは毎日放送だけ。そこを活用するのが局イメージを広げる。皆さんに親しんでもらうにはいいチャンスだ。
- *ニュースにおける一極集中をどう打ち破っていくかというのは新聞も同じで、西

日本のニュースを全国発信する取り組みを強化してほしい。毎年西日本8局の特番をつくっているという蓄積があるので、ぜひ全国発信していただきたい。

*最近のラジオ番組で印象に残ったのは、「ヤマヒロのびかいちラジオ」。生放送で出演者のコンビネーションがうまく行っている。今まであまりなかった雰囲気の良いラジオ番組だ。

*ドラマを見ていて、各局たまたまかもしれないが、警察ものと医療ものが重なっていた。独自の視点から番組を打ち出してほしい。

*発想の転換で、テレビの世界をラジオに取り込むのもラジオを活性化させるヒントになるんじゃないか。

*画面の中に人間が生きているテレビ番組をつくり続けてほしい。ラジオでは、語る言葉の中に人間が生きているラジオ番組をつくり続けてほしい。今生きている時代に誠実かつ真剣に向き合って、番組づくりに励んでいただきたい。
持続する志を時々思い出して、反芻しながら番組をつくっていかれることが大事なことじゃないか。

以上